す。 とあり懐かしき事としばし見とれる。當時は季節として寒き二月にひと月長野にて仕事せ ること思ひ出す。 の戸隱神社へ行く事となりにけり。 今年の夏は異常に暑き日續き、友人とどこぞ涼しき所へ短き旅行せむと話 長野驛は一九九八年の冬季オリンピック以來降り立ちぬ。 金澤行きの新幹線に乘車し二時間かからず長野に到著 驛中に五輪エンブレム燦然 し合ひ、 長野

祝詞 窓も全開なり。 タクシ は心地よく、 上げる。 にて戶隱神社の中社 龍描きたる高い 十時より祈禱願ひ申請してあり、 瞑想狀態になり 天井の本殿にて友人二人と椅子に座す。 へ上がれば、 ぬ。 まるで空調效いてるか 本殿へ案内せらるる。 0) 如く涼 祝詞と大太鼓の 神官大太鼓を叩き 待合室の

づこを選べば良きか難儀す。觀光案內所のスタッフ曰くいづこにても「旨い」と言ふ。 かば安心してある蕎麥屋ののれんくぐり、 祈禱終はると丁度晝時なり。 三人は戶隱蕎麥を所望すれど、 美味なる蕎麥食す。 周に何軒も蕎麥屋あり、

内に戻ること能わず。 言葉を交わすことも能はざるほど呼吸困難になりき。 ぐかと問ふと半分も歩いていらざる事判明。 止めになりしこと知らする「災害」アナウンスのメール屆く。少し遅れてあれば、 にて寫真映すため、 山を下りるは、 その後バスに 片道三キロと表示あり。 ・に乘車 ン車に乘車す。 曲がりくねる坂道降 上るより難儀す。 て奥社の入口まで上がる。 少し遠囘りなとなるにも、 タクシー降車すと、 お祓いのご利益なりと三人安堵のため息つかむ。 JR東海に比ぶれば、 りぬ。 ひたすら上り坂にて半分は階段。 驛に到著するやいなや戶隱近邊には落雷と大雨にて通行 出口まで到達せしときは腰痛になれり。もう歩めずとタ 稲妻走り、 樹齢四百年の大杉の大木連なる參道を歩み始む 氣落す。 東日本の車兩新しく、 鏡池を通りて長野驛へ降りる道程選ぶ。 遠雷聞こえる。 奥社と九頭龍社頂上にあり、 最後は三百段近き階段上り三人とも 降りて來る參拜者にもうす 乘り心地良しと覺ゆ。 ただちにタクシー發進 歸路は疲れ果て、 參拜後 鏡池

(平成二十八年二月八日受附